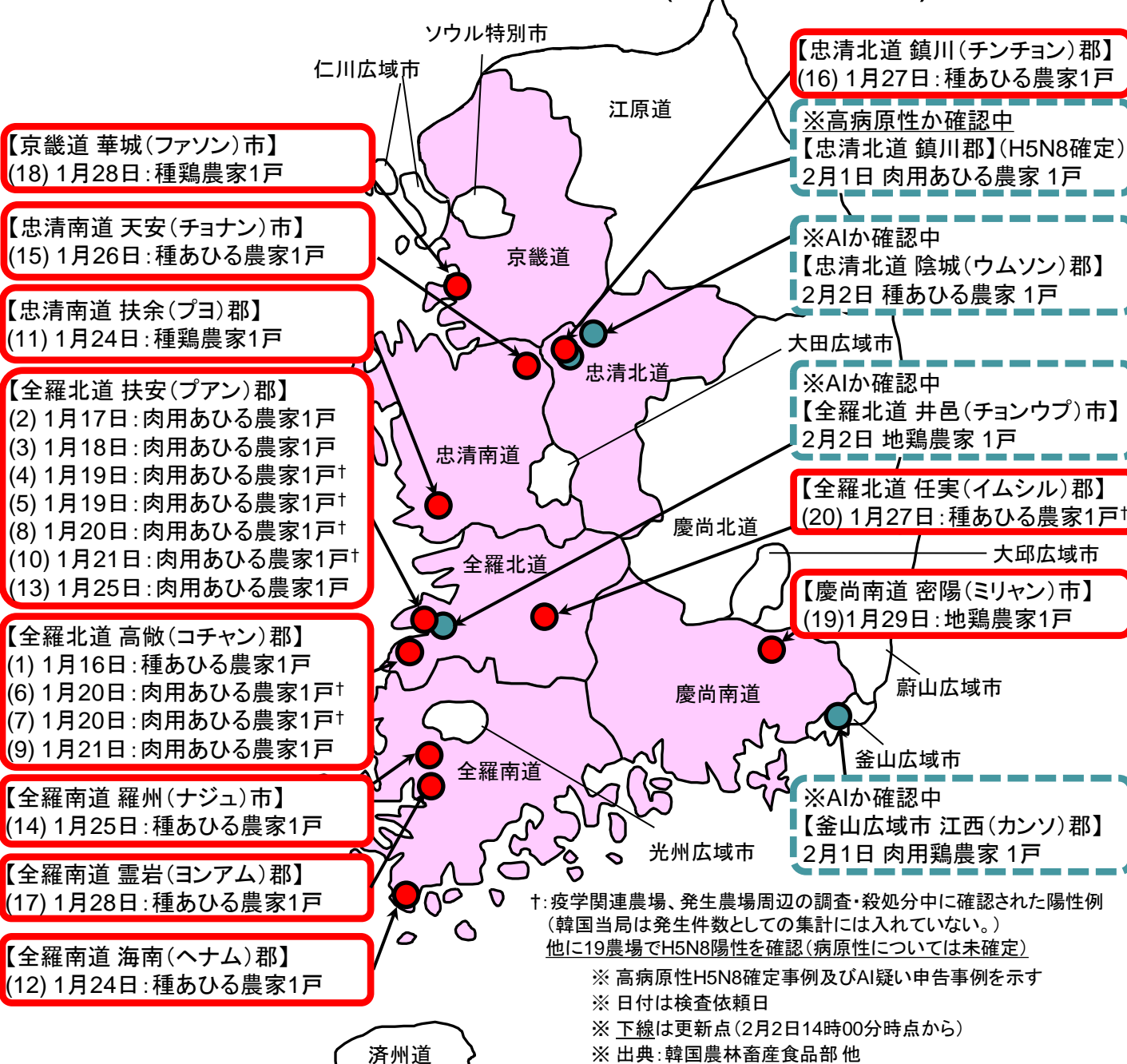


韓国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N8亜型) の発生状況 (2014年1月～)



【野鳥での発生・対応状況】

1月17日～: 野鳥検査(14市・道、172件)
1月20日～: 東林貯水池(全羅北道高敞郡)、錦江河口(忠清南道舒川郡、全羅北道群山市)、始華湖(京畿道華城市)、挿橋川(忠清南道唐津市)、全羅南道新安郡、西湖(京畿道水源市)、全羅南道靈岩郡)等で陽性

- ・ 陽性合計: 18件(トモエガモ10件、ヒシクイ3件、オオバン1件、マガモ2件、糞便等2件)
- ・ 野鳥の検出地点から10km内の家きん飼育場の移動制限措置、30km内の家きん飼育場の臨床調査、周辺道路・家きん農場の消毒

【防疫対応状況】

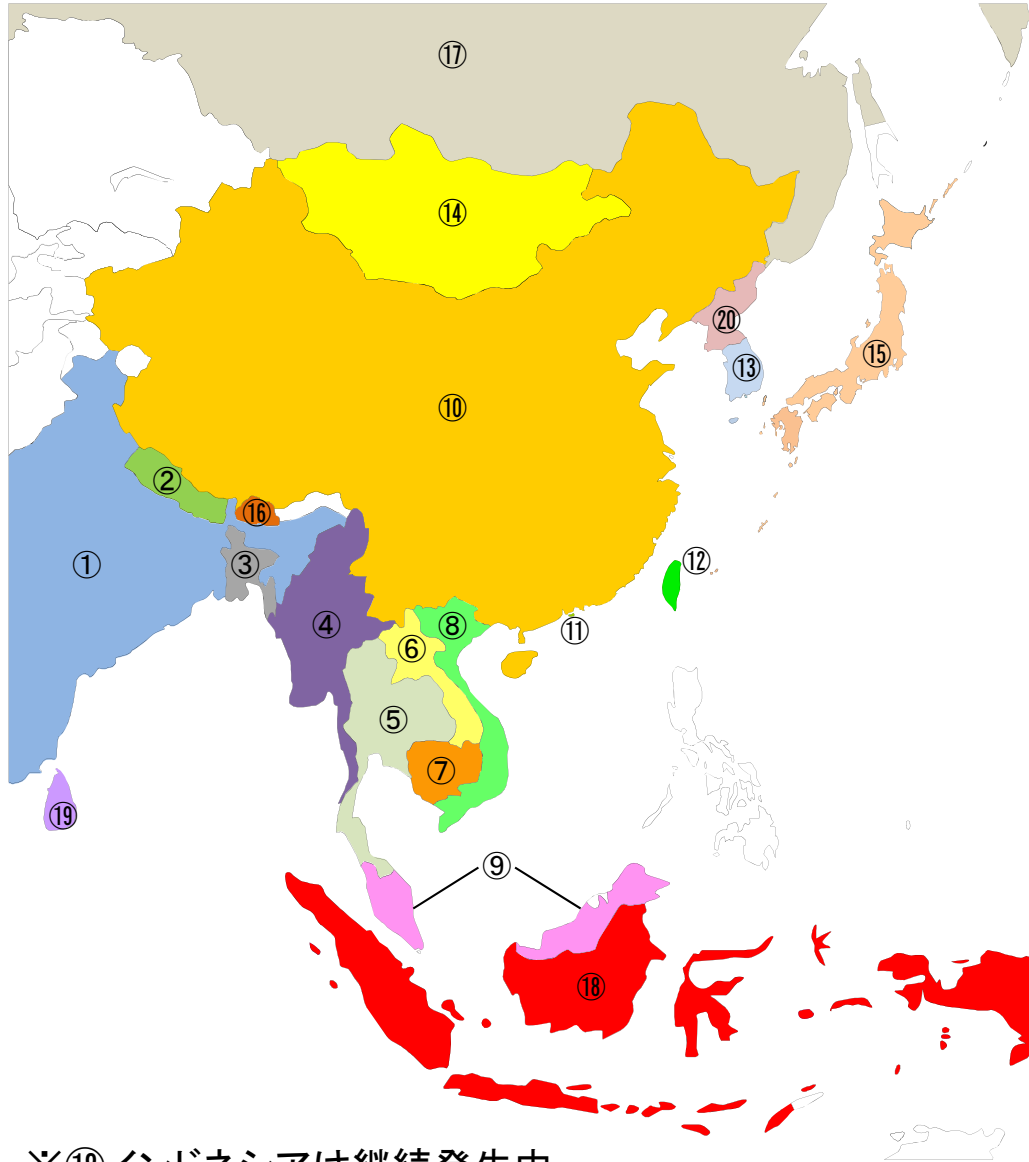
1 殺処分(2月2日時点)

- ・ 殺処分完了: 250万3千羽(106戸)
- ・ 殺処分予定: 25万7千羽(11戸)
- ・ 発生農場、疫学関連農場、各発生農場周囲の農場(あひる農場及び鶏農場: 危険地域(3km)内を対象)

2 現在の対応状況

- ・ 全国の伝統的な市場内の生きた鶏・あひるの販売店に対し、使用中止、全て空にした上で、一斉消毒を実施(1月30日～2月5日)。
- ・ 家きんの出荷前臨床検査、卵・飼料・糞尿等の適切な洗浄・消毒、鶏及びあひるの共同運搬の中止等
- ・ 種畜農場への対応強化(全国の種あひる農場で精密検査を実施、種鶏農場と孵化場の防疫実態の一斉点検)
- ・ 疫学関連のある1,595か所の畜産関係施設の移動制限・消毒等

アジアにおける高病原性及び低病原性 鳥インフルエンザの発生状況



※⑱インドネシアは継続発生中

2014年1月29日現在

出典: OIE WAHID 他

	① インド	② ネパール	③ バングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブータン	⑰ ロシア	⑱ スリランカ	⑳ 北朝鮮
2012年	1月	●▲	●					●			●▲					●			●
	2月	●	●	●	●			●			▲	●			▲	●			
	3月	●	●	●	●					●	▲	●			▲	●			
	4月	●		●						●	▲	●							
	5月						●			●		●							
	6月		●							●		▲							
	7月							●		●			*						
	8月		●					●		●									
	9月							●		●		●							
	10月	●	●	●						●							●		
	11月											●							
	12月	●		●								●					●		
2013年	1月		●				●	●			▲					●			
	2月	●	●	●			●	●											
	3月		●	●				●											
	4月		▲					●		●									●
	5月		●					●		●		●							
	6月		●							●		●							
	7月	●	●							●		●							
	8月		●				●												
	9月		●									●							
	10月											●							
	11月											●							
	12月										●	●							
'14年	1月						●			●	●		●						

*: マカオからの輸入事例(空港で摘発) (発生日、検体回収日に基づく)

家きん● 野鳥▲ (赤: 高病原性鳥インフルエンザ, 黒: 低病原性鳥インフルエンザ)

※ 野鳥の低病原性鳥インフルエンザについては確認可能な日本のみ記載